

④石井菊次郎報德碑



表石碑中央より上段に石井菊次郎とトーマス博士の線画が刻まれ、下段に両者の顕彰文がある。裏には、顕彰会の人々の名前が刻まれている。巾108cm 厚み14cm 高さ265cm。

(碑文)

枢密顧問官従一位勲一等子爵石井菊次郎翁

鷹司信輔題

房総三州古来偉人尠くはないが特に日蓮聖人伊能忠敬翁の如きは出色というべきである。然るところ近世世界の外交に枢密顧問官従一位勲一等子爵石井菊次郎翁を送ったことは郷土を挙げての一大誇である。実に翁は明治大正昭和にわたって日本の興隆と世界人類の平和と自由のために身命を捧げられたのであってその業績は永く青史に記録されて不滅なるべきを信じて疑わない。翁は慶応二年三月十日千葉県長生郡二宮本郷村真名大和久市作氏の家生まれ後石井邦猷氏の養子となった。幼にして学を好み長柄村国府里の儒者高吉佐一郎翁に漢学を学び千葉中学校第一高等学校を経て東京帝国大学法律学科を卒業明治二十三年佛国在勤を振出し三十三年北清事変に遭遇西徳二郎公使等と北京鞏城の辛酸を嘗められたことは人の知るところである。累進して三十七年通商局長四十一年外務次官四十四年日韓親善の項により男爵を授けられ四十五年佛国大使第一次世界大戦に際し英佛露の単独不講和宣言に参加すべきを政府に進言大正四年大隈内閣の外務大臣に就任五年日独事件の項により子爵を授けられ六年遣米特派大使として史上有名な石井ランシング協約を締結し北支に於ける日本の特殊地位を列国に承認せしめ九年佛国大使に転じ国際連盟帝国代表昭和二年ジュネーブ三国海軍軍縮会議全権三年枢密顧問官八年ロンドン世界経済会議全権等等我が国外交の重大問題の解決に尽瘁せられたが何ぞ凶らん二十年五月二十六日八十の齡を以て薨去せられた法号顕徳院殿法輝日菊大居士乃ち郷土の声は一丸となり茂原市道表山嶺太平洋に面するこの地点に翁の報徳碑を建設し以て英名を永えに伝え世界平和の金字塔たらしめんとするものである。

外務省顧問国際法学博士米亭トーマス翁

後藤文夫題

外務省顧問法学博士トーマス・ベイティ翁は千八百六十九年英国に生れ
国際法学の権威であると共に人類愛の精神に徹し生涯をつ貫かれた聖者
である大正四年石井菊次郎子爵が佛国大使を辞し大隈内閣の外務大
臣就任に際し博士の人格と博識を認められ翌五年外務省顧問に招かれ
たのであって爾来外国政策上寄与せられた事績は筆舌に尽し難い
されど其の後国際情勢は不幸世界大戦を誘発し日英砲火を交えるや日
本を熱愛した博士は祖国に容れられず在日四十年終に帰国の機会を得
ずして晩年不遇の間に日本の再興を心より念じ東海の波打寄せる一宮
の小屋に隣人愛を感謝しつつ国際法学上貴重な多数の著書を残して永
眠せられた時に昭和二十九年二月九日行年八十五 因に大正十一年
勲二等に叙せられ瑞宝章を授けられた 愛犬 黒
皇紀二千六百十六年 郷賢顕彰会建之